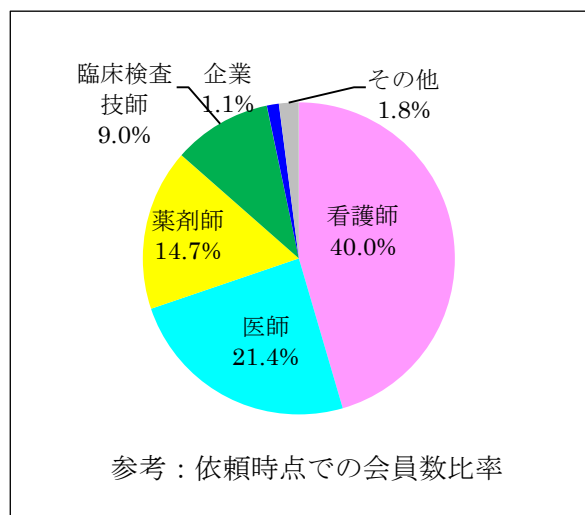
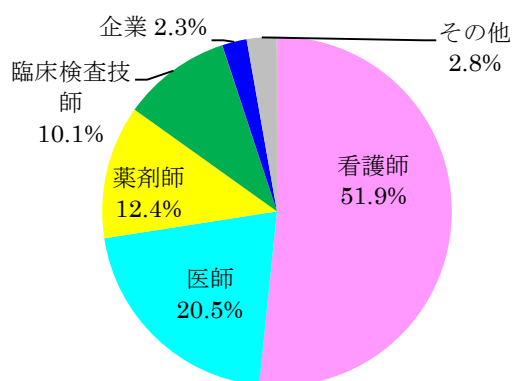


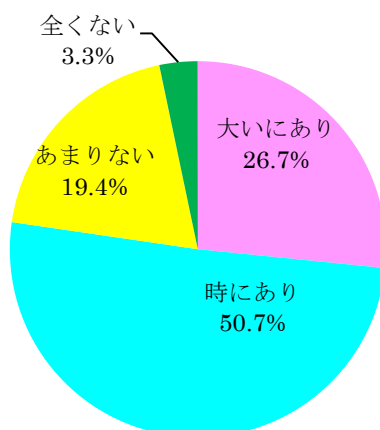
【調査結果】

- 2017年10月13日より実施。2018年5月1日現在、回答数2,525名。
- 回答率：31.9%（全会員に占める割合：26.6%）

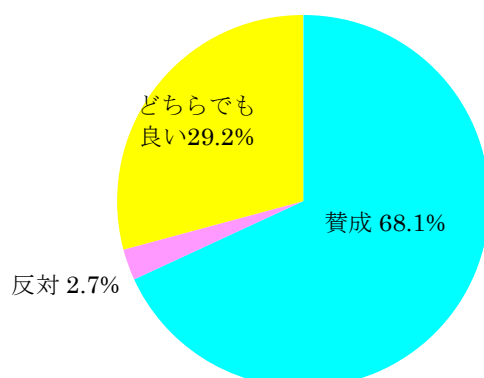
1. 回答者の職種



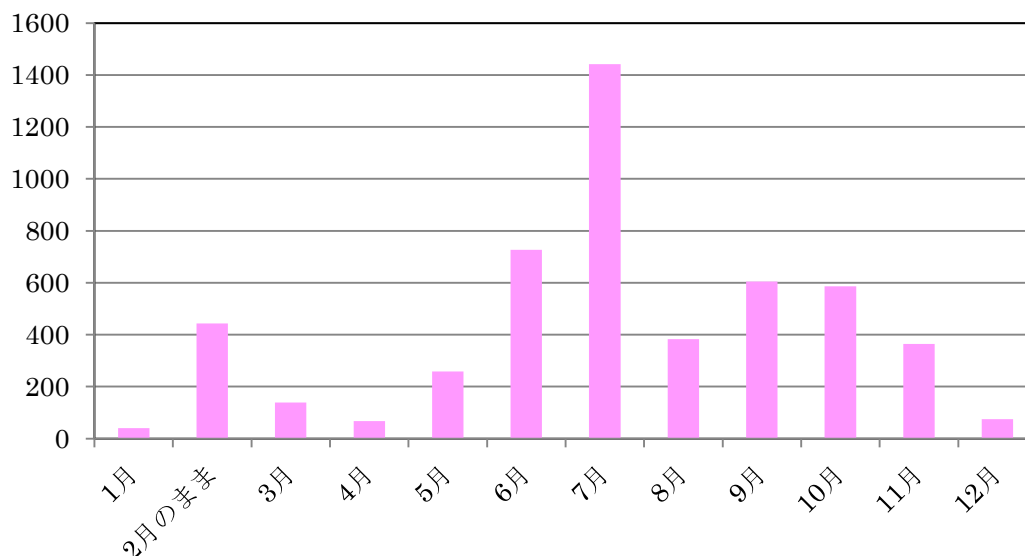
2. 2月開催への支障の有無



3. 開催時期変更への賛否



4. 希望開催月（「候補として7月を検討中」と設問に記載. 縦軸は回答者数）



5. アンケート結果のまとめ

- 約3割の回答率であった
- 回答者の職種は、学会員の職種比率と同様であった
- 回答者の4分の3が現状の2月開催に何らかの支障を感じており、7割弱が開催時期の変更を希望していた
- 変更するとした場合の希望時期については、設問に「7月開催を検討中」と記載したこともあり、7月が最も多かった

6. 参考資料

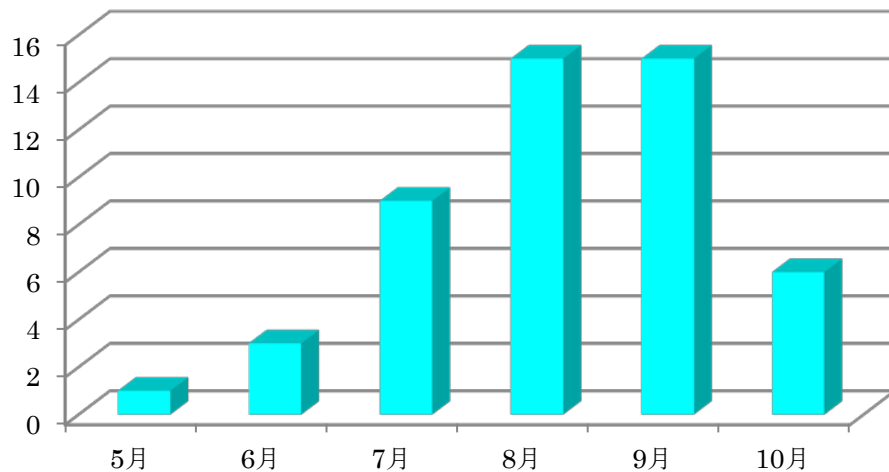
仮に開催時期を変更する場合、学会参加者が関係することが予想される各種学会の開催時期を避けることが望ましい。主な学会の開催時期を以下に示す。

- 1月 臨床微生物学会
- 2月 緑膿菌感染症研究会, 静脈経腸栄養学会
- 3月 集中治療医学会, 細菌学会, 結核病学会, 薬学会
- 4月 感染症学会, 内科学会, 外科学会, 呼吸器学会
- 5月 感染管理ネットワーク学会
- 6月 化学療法学会, 日本看護協会総会
- 7月 消化器外科学会
- 9月 TDM学会, 薬剤師学術大会
- 10月 手術医学会, 小児感染症学会, 東中西感染症/化療
- 11月 外科感染症学会, 医療薬学会

以上の日程を考慮すると、6月中旬から7月上旬が候補の一つとなる。ただしこの時期は以下のような意見がアンケートで出た。

- 5月の感染管理ネットワーク学会と近いのは困る
- 台風と重なると困る
- 猛暑時期は避けて欲しい
- 夏期休暇を取る職員が多い時期は学会に参加しにくい

中でも台風は交通機関の乱れにより学術集会に支障を来す。気象庁のデータ(2001年から2017年の台風上陸件数)によると、例年7月下旬から上陸件数が増加していることがわかる。なお関東甲信越の場合、梅雨の時期は6月8日頃から7月21日頃である(気象庁1951年から2017年集計)。



また本学会の定款では、「年次評議員会は、毎年1回、事業年度終了後3か月以内に開催する」(第23条)とされており、事業年度は12月31日であることから、評議員会は3月末までに開催する必要がある。評議員会は学術集会に合わせて開催しており、1月から3月を除く時期に学術集会を開催する場合は定款の変更が必要となる。定款の変更は「総評議員数の半数以上が出席」、且つ「出席した評議員の議決権の3分の2以上の賛成」、が必要である。

以上